

ていますが、夫への教え方が分ならず、苛立つてしまつ。妻を怒らせたくない夫と、教え方が分からない妻。夫が家事・子育てに積極的になつた時代だからこそ起きている問題です。これは、とても良い傾向で、新しい夫婦パートナー時代に向かう過渡期にあるといえます。

垣本さん 上下関係から、新しい夫婦パートナーになるのですね。

榎橋さん 子どもができて、ライフスタイルが変わると、二人の価値観が変わつてしまつたと悩まれるご夫婦もいます。しかし、それは至極当然のこと。「パートナーとの関係は変わつていくものだ」と胸に落ちていると、案外案なんですよ。

垣本さん 「夫婦関係は変化する」ということを知つてからこそ、相手を思いやり、「ありがとう」「ご苦労様」という言葉がけも大切にできるよに思います。知識があると、離婚を急ぐことが減るのかもそれませんね。

町が夫婦の悩みをサポート！

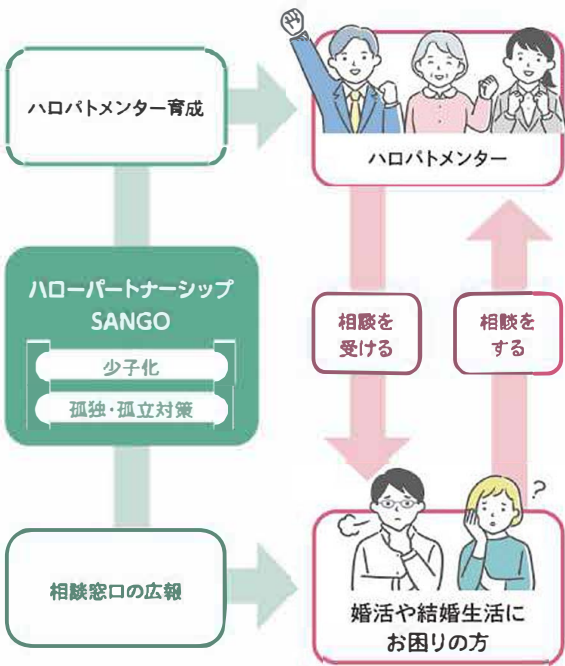
垣本さん 森町長、三郷町ではじまつた「ハロー・パートナーシップ」(以下、ハロパト)制度^{※2}は、夫婦の悩みにも応じてくれるユニークな取り組みだと伺いました。

森町長 そのとおりです。結婚は、他人同士が一緒に住むのですから、大変なことです。相手のことを考えず行動したり、些細なことで怒つてしまつたりと、誰もが一度や二度、経験はあるでしょう。問題が大きくなる前に、第三者機関に相談することも大切なのです。しかし、自治体には子育てサポートは多いのに、夫婦関係

三郷町婚活事業SVM
Sango Very Matching

三郷町×JMECA 町民の結婚を応援！

ハローパートナーシップセンター
SANGOの仕組み



もっと、「夫婦」

夫婦のパートナーシップ、
築いていますか？

「ありがとう」って言葉、
すごく大切！

JMECA
(NPO法人日本結婚教育協会)代表
榎橋 美枝子さん

自らの夫婦経験を通し「結婚を学ぼう、結婚を語ろう」という活動を2011年より行い、奈良県内を中心に各地で結婚応援に関する事業提案を。令和4年度より、三郷町の「ハローパートナーシップ」をバックアップする。



垣本 公美子さん
結婚を機に三郷町へ来て今年で19年目。老舗旅館「梅本家」の女将さんであり、4人の子育てママ。



募集

結婚応援ボランティアサポーターさん説明会
(ハローパートナーシップメンター)

会場 2022.12/8(木) 10:00~
会場 三郷町立図書館一階 視聴覚室
対象 三郷町をはじめ、奈良県を元気にしたい方

問合せ
ハローパートナーシップ事務局
080-4881-6291
info@jmeca.info



婚を望む皆様にも「活用いただきたいと考えています。」

森町長 家族が、心地よく生活をしていくためには、まず一人ひとりが自分の心地よさを知つていくことが大切です。夫婦というパートナーとして日常を心地よくしようと努める姿を、子どもたちに感じさせてあげてください。そうすると、子どもたちも「自分の心地よさに気づき、自分以外の人の「心地よさ」も認めていく」ことができると思います。「ハロパト」を利用することで、全町民が満足度高い人生を送つていただくことが私の願いです。

垣本さん もう、夫婦の悩みを相談することはタブーではない時代...ということですね。若い方から熟年の方まで、夫婦の悩みを抱えているご夫婦は大勢います。こんな住民サービスが、三郷町を超えて、県内全域に広まつてほしいなと思います。今日はありがとうございました。

結婚当初は仲良かったのに、子どもが生まれてから不仲になった...という夫婦の悩みを抱えていますか？良好な夫婦関係を継続するのに大切なことはなんですか？奈良県三郷町では、新たな取り組みとして、夫婦問題の相談に応じる制度が始まります(令和5年4月)。そこで今回は、子育てママ、結婚、夫婦問題の専門家、そして三郷町の町長と一緒に、これまでタブー視されてきた夫婦の問題について意見交換をしました。

気づいてない!?夫婦の上下関係

垣本さん 私の周囲を見渡すと、若い世代の夫婦関係が変わったように感じます。妻は活動的でしっかり発言し、旦那は優しく、家事や育児に関わっている、理想的な夫婦が増えてくる...でも、データ※1では婚姻件数が全国的に減少しているのに、離婚件数はさほど変わっていません。どうして、そんなことが起きているのでしょうか。

榎橋さん 時代は大きく変わりましたね。結婚も離婚も自由に選択でき、男女が社会や家庭においても協力し合う意識を持っている...素晴らしいことです。ここで、夫婦が不仲になるケースの一例ですが、榎橋さんのご指摘通り、家事・育児に協力しようという夫は増えていますが、そうなる中、「教える妻」と「教わる夫」という上下関係が起きやすいのです。妻も不慣れを頑張って家事・育児の方法を習得し



の話をしよう。

夫婦支援は、三郷町から始めていきます!



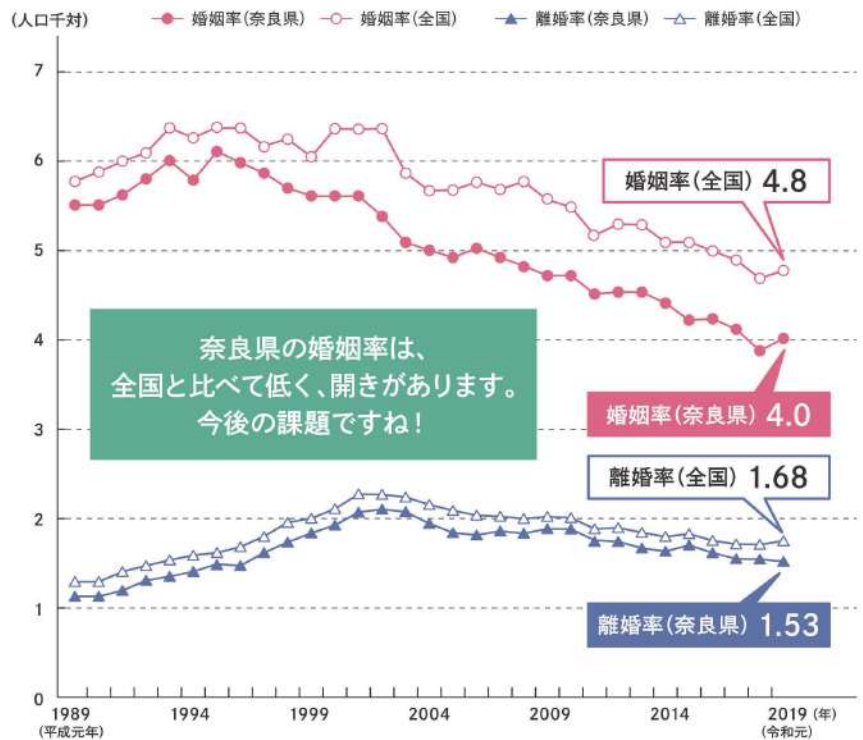
三郷町長
森 宏範さん

2010年三郷町長に就任し、現在4期目。「唯一人取り残さない町」を目指して、様々な町政を推進。職員と一丸となって、住みやすい町づくりに奔走中☆

※1

奈良県の婚姻率・離婚率の推移

資料:厚生労働省「人口動態統計」



※3

SDGsの理念「だれ一人取り残さない、世界を目指す三郷町は令和元年7月に「SDGs未来都市」に選定されました。



の些細な悩みに寄り添う仕組みはありません。そこで、三郷町では夫婦を支援する「ハロパト」制度を導入することに決定しました。これにより、少子化対策はもちろん、町民が暮らしやすい町になるのではと大いに期待しています。特徴は、町民の結婚相談に応じる『メンター』の存在です。

垣本さん メンターとは、こういった方ですか？

森町長 本町には、防災、教育など、様々な分野のメンターがあり、職員と連携して町民の支援に協力いただいています。ハロパト制度では、自分の人生経験を活かしつつ、しかし、結婚や夫婦に関する知識や情報も新たに習得いただき、パートナーとの関係性をよりよい状態にするためには、具体的にどのようにするのがよいのか、ご相談者と共に一緒に考えてくれます。

垣本さん 町が夫婦をサポートとは画期的ですね! だけど、初対面の方に夫婦のプライバシーなことを話すのはハードルが高いのではないのでしょうか？

榎橋さん お気持ちよくわかります。まず、メンターになっていただく方は、年齢層や性別も様々です。令和5年1月から、メンターご自身の価値観の押し付けにならないよう、幅広く学習し経験を重ねていただくのでご安心ください。

垣本さん それなら、各世代特有の悩みも理解してもらえそうですね。

榎橋さん これからの時代に大切なのは「自らがSOSを出す力」です。誰かに相談し、相談されることに慣れていくことが大切です。「ご相談」を通して私たち一人ひとりが共助互助の力をつけていきたいと考えています。本事業は結